

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271500397		
法人名	株式会社ヘルシーサービス		
事業所名	グループホームガーデンコート茂原 ユニット1		
所在地	千葉県茂原市高師2144-11		
自己評価作成日	平成30年1月20日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お客様の想いを大切に、ご自分でできることをやって頂きながら、一人ひとりが楽しみのある生活を送って頂けるようお手伝いさせて頂いております。
 毎月の行事には、季節を感じていただける食材を使ってお食事を提供しています。
 お客様の健康維持のため、体操を行ったり、季節の飲み物を提供して健康管理をしています。
 お客様の居心地のよい環境づくりのため共用空間の清潔、温度、湿度に気を付けています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階
訪問調査日	平成30年3月26日

「せんろは続くよどこまでも」を事業所スローガンに掲げ、常に利用者中心で取り組むことを全体で大切にしています。食事の準備や後片付けを利用者と一緒に取り組んだり、買い物への同行や外食会の開催、畑で野菜の収穫などを通じて楽しみを持って生活が送れるように取り組んでいます。また、今年度は季節ごと旬な食材を使用した行事食を利用者と一緒作り季節感が感じられるような取り組みに力を入れたほか、法人全体でも「健康維持活動」に力を入れており当ホームでも梅シロップや紫蘇ジュースづくり、暑さ対策として保冷剤を入れたクールネックタイによる熱中症予防への取り組みなどにも力を入れて取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての社是、経営理念、心得を踏まえ、事業所の理念を基に実践しています。理念は、事務所、共有部分に掲示しています。社是、経営理念、心得は会議のときに全員で昭和しています。	会社の社是、経営理念、心得をホーム内に掲示するほか、毎月の拠点会議でも周知し、職員全体で共有できるように取り組んでいます。また「せんろは続くよどこまでも」を事業所スローガンに掲げ、常に利用者中心で取り組むことを全体で大切にしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の自治会の催し物への参加を積極的に行い地域の方々にとけ込めるよう努力をしている 地域の商店で買い物をしています。	地域のごみゼロ運動への参加やホームで納涼祭を開催する際には近隣の商店から TENT を借りる等協力を得られています。地域のパチンコ屋から招待を受け遊戯体験を行ったり、地域のボランティアの受け入れなども行き交流を図っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献はできていないが、職員全員 認知症サポーター養成講座を受講しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告、活動報告、地域柄を踏まえた意見交換や情報共有を行っています。	会議には、地域包括支援センター、民生委員、自治会長、地域住民等の参加を受け2か月に一度定期的に開催しています。利用者やホームの状況報告のほか参加者から意見を収集しサービス向上につなげていけるように努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高齢者支援課・包括支援センターとは、運営推進会議を通して普段の取組を報告させて頂いてる また必要に応じ相談をしている。	市の高齢者支援課の担当者も地域包括支援センターと交互で運営推進会議に参加しておりホームの取り組みや利用者の状況を共有することができています。感染症発生時においても市の担当課に連絡を入れ必要な指示を仰ぐことができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全面の考慮から玄関の施錠は行なっています。身体拘束の研修を行い取り組んでいます。	身体拘束をしないケアの実践に向け、高齢者虐待、不適切なケアの防止策についての研修をホーム内で実施し、職員の理解を深めています。現状ホーム内では身体拘束につながる事例は発生していません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行い、職員一人ひとりに周知し適切なケアを実践しています。		

グループホームガーデンコート茂原(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や連絡ファイル通じ、情報の共有に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に不明な点を残さないよう伺いながら進めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的にご家族アンケートを実施しており、普段言いにくい事などを伝えてもらっている。電話連絡や来訪時にご意見などを伺っています。	家族からの意見や要望については面会時に直接確認しているほか、外部評価の家族アンケートを毎年実施しており意見や要望等を表出できる機会を設けています。利用者からの意向は日常会話から収集し、日々の支援に反映しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	3ヶ月毎の個人面談、人事考課面接、職員会議で自由に意見を言える時間を設けており、全体で話し合い検討を行っている。	管理者は職員と3ヶ月に一度面談する機会を設け、職員からの意向や要望などを定期的に確認しています。支援や業務に対する意見、要望、提案等については拠点会議やユニット会議時に確認し、日々の支援に活かしていけるよう取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	3ヶ月毎の個人面談や半年毎の人事考課制度で自分の目標を定め、実践に応じて評価できる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修等で介護の知識や技術の研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	営業を兼ねて同業者との交流し、情報交換等を行っている		

グループホームガーデンコート茂原(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを十分にとり、本人のニーズを引き出せるよう心がけています。職員間での情報共有を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用開始前に要望や背景の把握に努め、ご利用開始してからも状況の変化などこまめな報告に心がけ手おります。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	CM、相談員、施設、家族からの情報提供を求め、現在のご本人、ご家族の状況を正確にアセスメントし望む暮らしに近づけるようなサービスを心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活をお客様とともに行うことで信頼関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段からこまめに連絡をとり、お客様の状況をお互いに提供しあえる関係作りを行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	築いてきた交流を閉ざさないよう、ご家族様との外出、外泊の機会増えるよう働きかけています。 訪ねてくる友人や親戚の方を快くお迎えし関係が継続出来るように努めています。	馴染みの人や場所との関係が途切れないような支援では、友人の来訪や以前近所付き合いされていた方がホームに訪れた際にも快く受け入れ利用者と交流が図れるように取り組むなど、これまでの関係性を大切にして日々支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士が交流できる様な場を設け、よりよい関係が築けるよう働きかけています。		

グループホームガーデンコート茂原(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了した後も気軽に連絡が頂けるような声かけをしています。その後の様子を伺い、必要に応じて相談や支援が出来る様になっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自己主張の困難なお客様については、ご家族様からの意見を伺ったり、ご本人の表情から想いを汲み取るよう努め本人本位となるよう心がけています。	利用者からの意向や要望等については、職員が日常会話から収集し、日々の支援に活かしています。また、ケアプランの更新及び見直し時にはアセスメントを実施し、利用者の現状や課題、思い等を抽出しケアプランに反映しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族関係者から今までの生活歴を伺い従来の生活から可能な限り続けて行けるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の把握、日ごろの変化に注意を払い、職員やご家族を踏まえた情報交換ができるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	より良い、安全で安心な生活が継続できるよう 定期的に見直しを行い、変化があった場合は、本人やご家族、主治医と検討を行い見直しを行い その内容を反映させた介護計画を作成している。	アセスメントで抽出した結果を踏まえ、担当者会議において職員、家族の意見を収集し、総合的な意見を踏まえてケアプランを作成しています。ケアプランで掲げた目標の達成状況は毎月のモニタリングで確認しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態を記録しています。重要事項は申し送りや、業務日誌、会議等を通じて職員で情報共有をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物や外出、行事に参加し、可能な範囲で柔軟な対応をしています。		

グループホームガーデンコート茂原(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に積極的に参加や地域の店に買い物や外食など暮らしを楽しんでいただけるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関については、入居前に説明させていただき、ご本人、ご家族様の要望に沿ってかかりつけ医を優先しています。訪問診療で隔週往診を受けています。	提携先の医療機関とは各ユニット隔週での往診を通じて主治医と連携し、利用者が必要な医療を受けられる体制を築いています。提携先医療機関とは常時連絡が取れる体制を築いています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師とはこまめにお客様の情報を報告しており、往診時にスムーズに受診を行えるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際、入院担当医、看護師へ情報提供を行っています。入院中は状況確認に伺い、退院の際は、退院カンファレンスを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設としてできること、できないことを明確に説明し、ご本人、ご家族が納得されたうえで主治医を交えてケアの方向性を決めていきます。	重度化や終末期に向けた方針については、利用契約の際にホームとして取り組めることを家族に説明し方針を共有しています。ホームで生活を送る中で重度化が見られる際には、主治医、家族と今後の方針について再度検討していくこととしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回、普通救命講習を受講しています。社内研修で急変や事故発生時の対応の仕方などを行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っています。 運営推移進会議を通じて建物のオーナーや近隣住民に協力をお願いしています。	平成29年10月と平成30年1月の年2回、避難訓練を実施しており、10月の訓練では夜間を想定した訓練を実施し、1月の訓練には消防署の立会いを受けて実施しています。災害に備えて3日間分の備蓄品を保管するようにしています。	今後も年2回の訓練を継続すると共に、災害発生後において家族に対してどのような手段で利用者の安否を報告していくのかについてより明確になることを期待します。

グループホームガーデンコート茂原(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様の人格を尊重し、プライドを傷つけないよう努めて、特に羞恥心に配慮したサービスを行えるよう取り組んでいます。	利用者への言葉遣いについては日頃から職員に注意を促し、不適切な対応にならないよう取り組んでいます。また利用者の居室への出入りについてもノックをする、一声かけてからの入室を基本とし利用者のプライバシーを確保しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	やりたいこと、できること、行きたい場所、食べたいものなどお客様と一緒に考え、自己決定できるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせた食事や入浴時間に変更したり、急に外出したい場合など対応をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りや、衣類の自己決定や、必要な助言、介助を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様と職員が同じテーブルを囲んで食べています。メニューに食べたい物を取り入れ、メニュー書や食事の準備、下膳をいただいています。	食事の準備や後片付けには利用者にも参加を呼びかけ職員と一緒に準備等を進めています。食事を楽しむ工夫では季節感を感じられる食材をメニューに加えたり、各ユニット毎で外出に出かけ普段とは違う雰囲気ですぐに食事が楽しめるよう取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの摂れた食事を提供させて頂いています。水分量はある程度設定された量を下回らないよう声をかけています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は口腔ケアを、就寝前には義歯洗浄を行っています。また、訪問歯科の口腔ケアを行っています。		

グループホームガーデンコート茂原(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の排泄パターンを把握し、適切なトイレ誘導を心がけ自立に向けた支援を行っています。	利用者一人ひとりの排泄状況に関しては、個人日誌内の所定欄に排泄に関する記録を残していません。利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や適切な運動を取り入れています。排泄間隔を把握し、主治医に相談・指示をいただいています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週2回の予定ですが、当日の体調や気分に合わせて随意時変更し、希望に添った入浴ができるよう努めています。	利用者の体調を考慮し週に2回入浴できるように支援しています。入浴中は職員が介助につき安全に入浴できる体制としています。また、ゆず湯や菖蒲湯などの季節風呂や各種入浴剤なども使用し、入浴の楽しみにつなげています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の過ごし方を把握し本人のペースで休めるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時に薬剤師に立ち会って頂き、服薬管理、薬剤の説明と服薬の指導を頂いています。職員は症状の変化や状態を確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った役割をして頂いており、買い物、カラオケ、外食会等取り入れ気分転換を計っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は庭で日向ぼっこをしたり、散歩に出かけています。地域への買い物や外食会、カラオケや外出を企画しています。	天候や気候の良い日にはホーム前の駐車場での日光浴やホーム周辺の散歩を楽しめるように取り組んでいます。買い物への同行や外食会の開催、職員所有の畑で野菜の収穫を楽しめるような取り組みも実施し、戸外活動を充実させています。	

グループホームガーデンコート茂原(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	購入したい物品がある場合は、お預かりしているお小遣いからご本人の欲しい物を選んで購入をしてもらっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人とご家族の希望に添って支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の清潔に努め、湿度にも気をつけています。季節ごとの装飾をしています。ソファでゆったりとくつろげるようにしています。	共用の空間は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、行事や季節に合わせて装飾を工夫し、生活感や季節感を採り入れ居心地良く過ごせるように工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子などを置いてひとりになれる空間を作っています。気の合ったお客様同士が雑談や将棋ができるような席も工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使い慣れた家具をお持ち頂くよう説明しています。ご本人、ご家族と相談のうえ配置を決め安心できる空間を作れるよう支援しています。	居室は、利用者やご家族と相談しながら、使い慣れた家具や好みのものの持ち込みを可能とし、利用者が居心地よく過ごせるように配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お客様のできること、わかることを職員が把握し、自立した生活が送れるよう支援しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271500397		
法人名	株式会社ヘルシーサービス		
事業所名	グループホームガーデンコート茂原 ユニット2		
所在地	千葉県茂原市高師2144-11		
自己評価作成日	平成30年1月20日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お客様の想いを大切に、ご自分でできることをやって頂きながら、一人ひとりが楽しみのある生活を送って頂けるようお手伝いさせていただいております。
 毎月の行事には、季節を感じていただける食材を使ってお食事を提供しています。
 お客様の健康維持のため、体操を行ったり、季節の飲み物を提供して健康管理をしています。
 お客様の居心地のよい環境づくりのため共用空間の清潔、温度、湿度に気を付けています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階		
訪問調査日	平成30年3月26日		

「せんろは続くよどこまでも」を事業所スローガンに掲げ、常に利用者中心で取り組むことを全体で大切にしています。食事の準備や後片付けを利用者と一緒に取り組んだり、買い物への同行や外食会の開催、畑で野菜の収穫などを通じて楽しみを持って生活が送れるように取り組んでいます。また、今年度は季節ごと旬な食材を使用した行事食を利用者と一緒作り季節感が感じられるような取り組みに力を入れたほか、法人全体でも「健康維持活動」に力を入れており当ホームでも梅シロップや紫蘇ジュースづくり、暑さ対策として保冷剤を入れたクールネックタイによる熱中症予防への取り組みなどにも力を入れて取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての社是、経営理念、心得を踏まえ、事業所の理念を基に実践しています。理念は、事務所、共有部分に掲示しています。社是、経営理念、心得は会議のときに全員で昭和しています。	会社の社是、経営理念、心得をホーム内に掲示するほか、毎月の拠点会議でも周知し、職員全体で共有できるように取り組んでいます。また「せんろは続くよどこまでも」を事業所スローガンに掲げ、常に利用者中心で取り組むことを全体で大切にしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会の催し物への参加を積極的に行い地域の方々にとけ込めるよう努力をしている 地域の商店で買い物をしています。	地域のごみゼロ運動への参加やホームで納涼祭を開催する際には近隣の商店から TENT を借りる等協力を得られています。地域のパチンコ屋から招待を受け遊戯体験を行ったり、地域のボランティアの受け入れなども行き交流を図っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献はできていないが、職員全員 認知症サポーター養成講座を受講しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告、活動報告、地域柄を踏まえた意見交換や情報共有を行っています。	会議には、地域包括支援センター、民生委員、自治会長、地域住民等の参加を受け2か月に一度定期的に開催しています。利用者やホームの状況報告のほか参加者から意見を収集しサービス向上につなげていけるように努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高齢者支援課・包括支援センターとは、運営推進会議を通して普段の取組を報告させて頂いてる また必要に応じ相談をしている。	市の高齢者支援課の担当者も地域包括支援センターと交互で運営推進会議に参加しておりホームの取り組みや利用者の状況を共有することができています。感染症発生時においても市の担当課に連絡を入れ必要な指示を仰ぐことができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全面の考慮から玄関の施錠は行なっています。身体拘束の研修を行い取り組んでいます。	身体拘束をしないケアの実践に向け、高齢者虐待、不適切なケアの防止策についての研修をホーム内で実施し、職員の理解を深めています。現状ホーム内では身体拘束につながる事例は発生していません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行い、職員一人ひとりに周知し適切なケアを実践しています。		

グループホームガーデンコート(ユニット2)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や連絡ファイル通じ、情報の共有に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に不明な点を残さないよう伺いながら進めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的にご家族アンケートを実施しており、普段言いにくい事などを伝えてもらっている。電話連絡や来訪時にご意見などを伺っています。	家族からの意見や要望については面会時に直接確認しているほか、外部評価の家族アンケートを毎年実施しており意見や要望等を表出できる機会を設けています。利用者からの意向は日常会話から収集し、日々の支援に反映しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	3ヶ月毎の個人面談、人事考課面接、職員会議で自由に意見を言える時間を設けており、全体で話し合い検討を行っている。	管理者は職員と3ヶ月に一度面談する機会を設け、職員からの意向や要望などを定期的に確認しています。支援や業務に対する意見、要望、提案等については拠点会議やユニット会議時に確認し、日々の支援に活かしていけるよう取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	3ヶ月毎の個人面談や半年毎の人事考課制度で自分の目標を定め、実践に応じて評価できる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修等で介護の知識や技術の研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	営業を兼ねて同業者との交流し、情報交換等を行っている		

グループホームガーデンコート(ユニット2)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを十分にとり、本人のニーズを引き出せるよう心がけています。職員間での情報共有を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用開始前に要望や背景の把握に努め、ご利用開始してからも状況の変化などこまめな報告に心がけ手おります。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	CM、相談員、施設、家族からの情報提供を求め、現在のご本人、ご家族の状況を正確にアセスメントし望む暮らしに近づけるようなサービスを心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活をお客様とともに行うことで信頼関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段からこまめに連絡をとり、お客様の状況をお互いに提供しあえる関係作りを行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	築いてきた交流を閉ざさないよう、ご家族様との外出、外泊の機会増えるよう働きかけています。 訪ねてくる友人や親戚の方を快くお迎えし関係が継続出来るように努めています。	馴染みの人や場所との関係が途切れないような支援では、友人の来訪や以前近所付き合いされていた方がホームに訪れた際にも快く受け入れ利用者と交流が図れるように取り組むなど、これまでの関係性を大切にして日々支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士が交流できる様な場を設け、よりよい関係が築けるよう働きかけています。		

グループホームガーデンコート(ユニット2)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了した後も気軽に連絡が頂けるような声かけをしています。その後の様子を伺い、必要に応じて相談や支援が出来る様になっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自己主張の困難なお客様については、ご家族様からの意見を伺ったり、ご本人の表情から想いを汲み取るよう努め本人本位となるよう心がけています。	利用者からの意向や要望等については、職員が日常会話から収集し、日々の支援に活かしています。また、ケアプランの更新及び見直し時にはアセスメントを実施し、利用者の現状や課題、思い等を抽出しケアプランに反映しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族関係者から今までの生活歴を伺い従来の生活から可能な限り続けて行けるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の把握、日ごろの変化に注意を払い、職員やご家族を踏まえた情報交換ができるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	より良い、安全で安心な生活が継続できるよう 定期的に見直しを行い、変化があった場合は、本人やご家族、主治医と検討を行い見直しを行い その内容を反映させた介護計画を作成している。	アセスメントで抽出した結果を踏まえ、担当者会議において職員、家族の意見を収集し、総合的な意見を踏まえてケアプランを作成しています。ケアプランで掲げた目標の達成状況は毎月のモニタリングで確認しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態を記録しています。重要事項は申し送りや、業務日誌、会議等を通じて職員で情報共有をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物や外出、行事に参加し、可能な範囲で柔軟な対応をしています。		

グループホームガーデンコート(ユニット2)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に積極的に参加や地域の店に買い物や外食など暮らしを楽しんでいただけるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関については、入居前に説明させていただき、ご本人、ご家族様の要望に沿ってかかりつけ医を優先しています。訪問診療で隔週往診を受けています。	提携先の医療機関とは各ユニット隔週での往診を通じて主治医と連携し、利用者が必要な医療を受けられる体制を築いています。提携先医療機関とは常時連絡が取れる体制を築いています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師とはこまめにお客様の情報を報告しており、往診時にスムーズに受診を行えるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際、入院担当医、看護師へ情報提供を行っています。入院中は状況確認に伺い、退院の際は、退院カンファレンスを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設としてできること、できないことを明確に説明し、ご本人、ご家族が納得されたうえで主治医を交えてケアの方向性を決めていきます。	重度化や終末期に向けた方針については、利用契約の際にホームとして取り組めることを家族に説明し方針を共有しています。ホームで生活を送る中で重度化が見られる際には、主治医、家族と今後の方針について再度検討していくこととしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回、普通救命講習を受講しています。社内研修で急変や事故発生時の対応の仕方などを行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っています。 運営推移進会議を通じて建物のオーナーや近隣住民に協力をお願いしています。	平成29年10月と平成30年1月の年2回、避難訓練を実施しており、10月の訓練では夜間を想定した訓練を実施し、1月の訓練には消防署の立会いを受けて実施しています。災害に備えて3日間分の備蓄品を保管するようにしています。	今後も年2回の訓練を継続すると共に、災害発生後において家族に対してどのような手段で利用者の安否を報告していくのかについてより明確になることを期待します。

グループホームガーデンコート(ユニット2)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様の人格を尊重し、プライドを傷つけないよう努めて、特に羞恥心に配慮したサービスを行えるよう取り組んでいます。	利用者への言葉遣いについては日頃から職員に注意を促し、不適切な対応にならないよう取り組んでいます。また利用者の居室への出入りについてもノックをする、一声かけてからの入室を基本とし利用者のプライバシーを確保しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	やりたいこと、できること、行きたい場所、食べたいものなどお客様と一緒に考え、自己決定できるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせた食事や入浴時間に変更したり、急に外出したい場合など対応をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りや、衣類の自己決定や、必要な助言、介助を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様と職員が同じテーブルを囲んで食べています。メニューに食べたい物を取り入れ、メニュー書や食事の準備、下膳をしています。	食事の準備や後片付けには利用者にも参加を呼びかけ職員と一緒に準備等を進めています。食事を楽しむ工夫では季節感を感じられる食材をメニューに加えたり、各ユニット毎で外出に出かけ普段とは違う雰囲気ですり食事を楽しめるよう取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの摂れた食事を提供させて頂いています。水分量はある程度設定された量を下回らないよう声をかけています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は口腔ケアを、就寝前には義歯洗浄を行っています。また、訪問歯科の口腔ケアを行っています。		

グループホームガーデンコート(ユニット2)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の排泄パターンを把握し、適切なトイレ誘導を心がけ自立に向けた支援を行っています。	利用者一人ひとりの排泄状況に関しては、個人日誌内の所定欄に排泄に関する記録を残していません。利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や適切な運動を取り入れています。排泄間隔を把握し、主治医に相談・指示をいただいています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週2回の予定ですが、当日の体調や気分に合わせて随意時変更し、希望に添った入浴ができるよう努めています。	利用者の体調を考慮し週に2回入浴できるように支援しています。入浴中は職員が介助につき安全に入浴できる体制としています。また、ゆず湯や菖蒲湯などの季節風呂や各種入浴剤なども使用し、入浴の楽しみにつなげています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の過ごし方を把握し本人のペースで休めるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時に薬剤師に立ち会って頂き、服薬管理、薬剤の説明と服薬の指導を頂いています。職員は症状の変化や状態を確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った役割をして頂いており、買い物、カラオケ、外食会等取り入れ気分転換を計っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は庭で日向ぼっこをしたり、散歩に出かけています。地域への買い物や外食会、カラオケや外出を企画しています。	天候や気候の良い日にはホーム前の駐車場での日光浴やホーム周辺の散歩を楽しめるように取り組んでいます。買い物への同行や外食会の開催、職員所有の畑で野菜の収穫を楽しめるような取り組みも実施し、戸外活動を充実させています。	

グループホームガーデンコート(ユニット2)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	購入したい物品がある場合は、お預かりしているお小遣いからご本人の欲しい物を選んで購入をしてもらっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人とご家族の希望に添って支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の清潔に努め、湿度にも気をつけています。季節ごとの装飾をしています。ソファでゆったりとくつろげるようにしています。	共用の空間は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、行事や季節に合わせて装飾を工夫し、生活感や季節感を採り入れ居心地良く過ごせるように工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子などを置いてひとりになれる空間を作っています。気の合ったお客様同士が雑談や将棋ができるような席も工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使い慣れた家具をお持ち頂くよう説明しています。ご本人、ご家族と相談のうえ配置を決め安心できる空間を作れるよう支援しています。	居室は、利用者やご家族と相談しながら、使い慣れた家具や好みのものの持ち込みを可能とし、利用者が居心地よく過ごせるように配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お客様のできること、わかることを職員が把握し、自立した生活が送れるよう支援しています。		